

令和5年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立大森第四中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全学年落ち着いて授業を進めることができた。
- ・被服実習では、全学年ICTを活用し、主体的かつ積極的に取り組んだ。
- ・調理実習は班員と協力し、怪我無く安全に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・感染症の影響もあり、幼児交流ができなかった。
- ・限られる時間の中で、調理実習の実施が難しい場面があった。
- ・授業で学んだことを日々の学校生活に生かそうとする姿勢が不十分である部分がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

<知識・技能>

- ・見通しをもち、実践可能な基礎的・基本的な知識・技能を習得できる授業の提示。家庭学習課題・物の製作・調べ学習・発表活動・近隣保育園との幼児交流等。
- ・3年間で調理の基礎的・基本的技術の習得を図る。感染症対策を実施したうえで、調理実習を行う。家庭で実習可能な課題を検討し、取り入れる。
- ・布を用いた製作を、各学年で段階的に取り入れる（第1学年…ブックカバー製作、第2学年…トートバッグ製作、第3学年…幼児のための布絵本製作）。衣服の修復に必要なボタン付け・まつり縫いを、身に付けさせる。

<思考・判断・表現>

- ・作品は、デザインから考えさせ、創造力の育成に努める。
- ・「自分だったらどうするか？」という視点で、当事者意識をもたせる。自分の得意な学習方法で学ぶ機会を取り入れる。

<主体的に取り組む態度>

- ・学習した成果を発揮できる場面多く設定するため、清陵祭での作品展示や作品発表会、レポート課題で作品と向き合う時間をとる。
- ・授業の導入にICT機器を積極的に取り入れ、生徒の興味・関心を高める。各学年、発表活動の際に電子黒板を使用し、自身の意見やお友達の意見を取り入れ、教室全体への共有を意識させる。